

研修④

自立活動の指導目標と 指導内容の設定について

熊本県教育委員会

※この動画は、県立菊池支援学校の宮崎指導教諭が作成された研修資料を基に作成しています

研修の流れ

- 1 指導目標と指導内容の設定のプロセス
- 2 評価について
- 3 まとめ

準備物

- 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編
- 《資料1》自立活動ワークシート
- 《資料2》自立活動の個別の指導計画例
- 《資料3》自立活動内容整理表
- 《資料4》課題関連図演習ワークシート



■考えてみましょう！ 演習A

担当している一人の子供について想像してください。

Q子供が困っていることは何ですか？

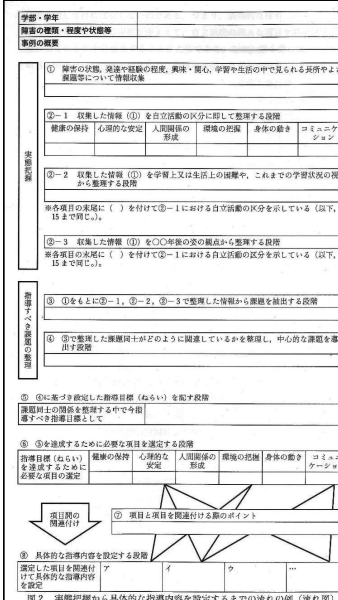
《資料1》自立活動ワークシートに
記入してみましょう。



I 指導目標と指導内容の設定のプロセス

＊ 全体を捉える

- (1) 実態把握(区分ごとに)
- (2) 指導すべき課題の整理
- (3) 「指導目標(ねらい)」の設定
- (4) 必要な項目の選定
- (5) 必要な項目を関連づけて具体的な指導内容を設定



解説P.28 図2 実態把握から具体的な指導内容までの流れの例(流れ図)

- ① . 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集
- ② . -1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階
- 2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
- 3 収集した情報(①)を○年後の姿の観点から整理する段階
- ③ . ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階
- ④ . ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
- ⑤ . ④に基づき設定した指導目標を示す段階
- ⑥ . ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階
- ⑦ . 項目と項目を関連付ける際のポイント
- ⑧ . 具体的な指導内容を設定する段階

流れ図は、個別の指導目標や指導内容を定めるための手順を示したものです!



ポイント 自立活動の個別の指導計画様式例

手順を様式に取り入れた例

令和○年度(○年度) 熊本県立○支援学校 自立活動 個別の指導計画

①障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集

②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階

②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階

②-3 収集した情報(①)を○年後の姿の観点から整理する段階

③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を示す段階

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

⑧ 具体的な指導内容を設定する段階

指導目標(ねらい)

指導内容(具体的な指導内容)

指導目標(ねらい)と指導内容(具体的な指導内容)の関係を明確に示すための様式例です。

(I) 実態把握

I 実態把握

① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集
②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階
健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション
②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
③ ①をもとに②-1、②-2、③-3で整理した情報から課題を抽出する段階
④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階
⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階
⑦ ⑥に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階
⑧ ⑦に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階

図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

①. 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集

- ②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階
- 2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
- 3 収集した情報(①)を○年後の姿の観点から整理する段階
- ③. ①をもとに②-1、②-2、③-3で整理した情報から課題を抽出する段階
- ④. ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
- ⑤. ④に基づき設定した指導目標を示す段階
- ⑥. ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階
- ⑦. 項目と項目を関連付ける際のポイント
- ⑧. 具体的な指導内容を設定する段階

《事例A》 学習指導要領解説P.152のケースの改変 【校種・学級・学年】中学校・知的障害支援学級・第1学年 【障害の種類・程度や状態等】自閉症、知的障害

① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題

- ・ 運動が好きで、進んで体を動かしている。
- ・ 他者の様子に関心があり、進んでコミュニケーションを取ろうとする。
- ・ 気持ちが落ち着かなくなったときに、自らの行動を抑制することが難しく、他者に対して荒々しい行動に及んでしまうことがある。
- ・ 困ったことに直面したときに、他者に援助を求める方法が身に付いていない。
- ・ 険しい表情・口調で話してしまうことが多く、相手に動揺を与えてしまうことがある。
- ・ 感情などを言葉にして話すことが難しく、相手に意思が伝わらないことが多い。
- ・ 一方的に話してしまうことが多く、相手の話を聞くのが苦手なため、会話が成立しにくい。
- ・ 健康状態は良好で生活リズムは確立している。

I 実態把握

① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集
②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階
健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション
②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
③ ①をもとに②-1、②-2、③-3で整理した情報から課題を抽出する段階
④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階
⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階
⑦ ⑥に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階
⑧ ⑦に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階

図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

①. 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集

- ②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階
- 2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
- 3 収集した情報(①)を○年後の姿の観点から整理する段階
- ③. ①をもとに②-1、②-2、③-3で整理した情報から課題を抽出する段階
- ④. ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
- ⑤. ④に基づき設定した指導目標を示す段階
- ⑥. ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階
- ⑦. 項目と項目を関連付ける際のポイント
- ⑧. 具体的な指導内容を設定する段階

① 「区分に即して」とは？

演習B



同じ場所で、じっとしていることが難しい

区分や項目は何だと思いますか？
学習内容整理表の表紙を見て選んでみましょう！



《資料1》自立活動ワークシートに記入してみましょう。

区分()
項目()
同じ場所で、じっとしていることが難しい。

② 「区分に即して」とは？

2 心理的な安定(1)
同じ場所で、じっとして
いることが難しい。

5 身体の動き(1)
同じ場所で、じっとして
いることが難しい。

③ 「区分に即して」とは？

区 分	項 目

④ 「区分に即して」とは？

学習指導要領解説自立活動編(P.29)

「自立活動の区分に即して整理」とは、
障害名のみに頼って特定の指導内容に偏ることがないように、対象
となる幼児児童生徒の**全体像を捉えて整理すること**を意図してい
る。その際、本解説第6章に示す6区分27項目の解説を踏まえて
整理することが大切である。

ポイント 「自立活動内容整理表」で確認する。

【注】「障害名」等：特別に「障害名」があげられていない場合は斜線
「③」：「③ 他」の項目との関連に記載されている内容の一部

1 健康の保持

内容の観点	生命を維持し、日常生活を行うために必要な身体の状態の維持・改善を身体的な側面を中心として図る。		
項目	②具体的な指導内容例と留意点	③他の項目との関連例	④他の項目
(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事項 ①この項目について 体温の調節、覚醒と睡眠など健康状態の維持・改善に必要な生活のリズムを身に付けること、食事や排泄などの生活習慣の形成、衣服の調節、室温の調節や換気、感染予防のための清潔の保持など健康な生活環境の形成を図ること	〇覚醒と睡眠のリズムが不規則なことが多く、しかも、体力が弱かったり、食事の量や時間、排泄の時間が不規則になったりする。 ③覚醒と睡眠のリズムが不規則になり、例えば日中に体を動かす活動が十分にできないことから、夜になっても眠くならず、その結果、朝起きられなくなり昼近くなっても目覚めるといった状態が常態。	〇睡眠、食事、排泄というような基礎的な生活のリズムが身に付くようにすることなど、健康維持の基礎の確立を図るための具体的な指導内容の設定が必要。 ③家庭に連携をとり、週末または時刻に合わせることで、生活のリズムを整えるようにし、日中は、身体を動かす活動や遊びを十分にやり、夜は、規則正しく食事をする。規則正しく食事をする等の生活リズムを形成するための指導を行う必要がある。 ③日中の活動を計画する際には、幼児児童生徒が「視覚や聴覚等の保有する感覚を活用するよう活動内容を工夫する」。 ③自分では身体を動かすことができない場合、教師が補助して身体を動かすような活動を取り入れることによって覚醒を促すことも効果的である。	〇生活のリズムを形成する指導を行うため →「4 環境の把握」「5 身体運動」等
※生活のリズムや生活習慣の形成に関する指導の留意事項 ・対象の幼児児童生徒の1日の生活状況を把握が必要。特に、覚醒と睡眠リズム、食事や排泄の頻度や時間や回数、量、食物の調理形態、摂取時の姿勢	〇視覚障害 〇聴覚障害 〇自閉症	〇昼夜の区別がつかないことなど、覚醒と睡眠のリズムが不規則になり、昼夜逆転した生活になる。 〇特定の食料や衣服に強いこだわりを示す場合があり、極端な偏食	〇障害のある幼児児童生徒の困難の要因を明らかにした上で、無理のない程度の課題から取り組む。

健康状態	生活リズム	生活習慣	生活環境	生活態度
健康状態	生活リズム	生活習慣	生活環境	生活態度
健康状態	生活リズム	生活習慣	生活環境	生活態度
健康状態	生活リズム	生活習慣	生活環境	生活態度
健康状態	生活リズム	生活習慣	生活環境	生活態度
健康状態	生活リズム	生活習慣	生活環境	生活態度
健康状態	生活リズム	生活習慣	生活環境	生活態度
健康状態	生活リズム	生活習慣	生活環境	生活態度
健康状態	生活リズム	生活習慣	生活環境	生活態度
健康状態	生活リズム	生活習慣	生活環境	生活態度

①(情報)の中にこの項目に該当する内容はありますか確認。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

該当する内容があったら、カード(付箋)に記入。
＜書き方例＞

健康(1)
暑くても声をかけられるまで上着を脱がない。

- 項目の意味を確認しても該当するような内容がない場合は、付箋をつくる必要はありません。
- 区分の観点から捉えた実態であれば、項目の番号も記入する必要はないでしょう。

後に、付箋の内容を②-1として、以下に記入すれば、個別の指導計画の一部になります。

健康(1)
暑くても声をかけられるまで上着を脱がない。

1 実態把握(2)

②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成
(1) 暑くても声をかけられるまで上着を脱がない。		

■ 事例Aさんの場合

[健] 健康状態は良好で生活リズムは確立している。

[人(2)] 一方的に話してしまうことが多い。

[身] 運動が好きで、進んで体を動かすことができる。

[心(1)] 気持ちが落ち着かなくなった時に、自らの行動を抑制することが難しい。

[人(2)] 相手の話を聞くのが苦手である。

[コ(1)] 感情などを言葉にして話すことが難しく、相手に意思が伝わらないことが多い。

[環(2)] 聴覚から情報を得ることは苦手である。

[人(3)] 他者に対して荒々しい行動に及んでしまうことがある。

[コ(5)] 困ったことに直面した時に、他者に援助を求める方法が身に付いていない。

[環(2)] 視覚から情報をとらえて理解することは得意である。

[人(3)] 険しい表情・口調で話してしまうことが多い。

②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・健康状態は良好で生活リズムは確立している。	(1) 気持ちが落ち着かなくなった時に、することが難しい。	(2) 一方的に話してしまうことが多い。	(2) 聴覚から情報を得ることは苦手である。	・運動が好きで、進んで体を動かすことができる。	(1) 感情などを言葉にして話すことが難しく、相手に意思が伝わらないことが多い。
		(2) 相手の話を聞くのが苦手である。	(2) 視覚から情報をとらえて理解することは得意である。		(5) 困ったことに直面した時に、他者に援助を求める方法が身に付いていない。
		(3) 他者に対して荒々しい行動に及んでしまうことがある。			
		(3) 険しい表情・口調で話してしまうことが多い。			

記入例

Ⅰ 実態把握

②-2

②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階

②-3 収集した情報(①)を〇年後の姿の観点から整理する段階

②-3

②-3 ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階

②-3 ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

②-3 ④に基づき設定した指導目標を示す段階

②-3 ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階

②-3 ⑦項目と項目を関連付ける際のポイント

②-3 ⑧具体的な指導内容を設定する段階

- ①. 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集
- ②. -1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階
- 2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
- 3 収集した情報(①)を〇年後の姿の観点から整理する段階
- ③. ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階
- ④. ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
- ⑤. ④に基づき設定した指導目標を示す段階
- ⑥. ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階
- ⑦. 項目と項目を関連付ける際のポイント
- ⑧. 具体的な指導内容を設定する段階

■ 事例Aさんの場合

[心(1)] 気持ちが落ち着かなくなった時に、自らの行動を抑制することが難しい。

[心(2)] 一方的に話してしまうことが多い。

[心(3)] 他者に対して荒々しい行動に及んでしまうことがある。

[心(5)] 困ったことに直面した時に、他者に援助を求める方法が身に付いていない。

[身] 運動が好きで、進んで体を動かすことができる。

[環(2)] 視覚から情報をとらえて理解することは得意である。

[環(2)] 聴覚から情報を得ることは苦手である。

[人(2)] 相手の話を聞くのが苦手である。

[人(3)] 険しい表情・口調で話してしまうことが多い。

[健] 健康状態は良好で生活リズムは確立している。

[コ(1)] 感情などを言葉にして話すことが難しく、相手に意思が伝わらないことが多い。

[コ(5)] 困ったことに直面した時に、他者に援助を求める方法が身に付いていない。

確認! 実態を、様々な観点から整理するとは?

②-2

収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階

②-3

収集した情報(①)を〇年後の姿の観点から整理する段階

「指導開始時点で課題となる」課題
概ね1年間で解決したい課題かどうか確認する作業

(今年度は)見送る課題

- ① 教科学習で取り組むべきこと
- ② できるようになってきたこと、得意なこと
- ③ 指導してきたが、改善が見られないこと
- ④ 発達の道筋の上で、まだ取り組むには早期であると考えられること
- ⑤ 課題はあるが、配慮として対応せざるを得ないこと
- ⑥ 現在の生活に影響が少ないこと 等

- 卒業後の姿、または、3年後の姿のイメージからは是非取り組みたいこと

- ②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階
- ②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
- ②-3 収集した情報(①)を〇年後の姿の観点から整理する段階

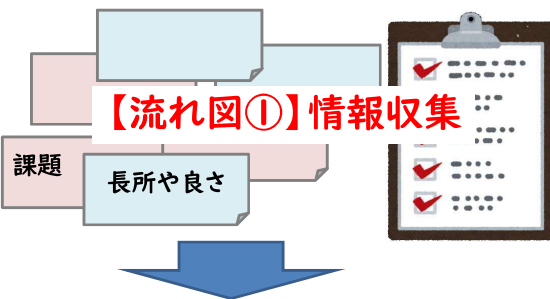
健康の保持	心理的安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・健康状態は良好で生活リズムは確立している。 *できています	(1) 気持ちが落ち着かなくなった時に、自らの行動を抑制することが難しい。 *一般就労を目指すことから行動のコントロールは重要	(2) 一方的に話してしまうことが多い。 *関わりたい気持ちはある *卒業後に企業就労を見据え、会話が弾むような人間関係を築けるようになってほしい	(2) 聴覚から情報を得ることは苦手である。	・運動が好きで、進んで体を動かすことができる。 *できています	(1) 感情などを言葉にして話すことが難しく、相手に意思が伝わらないことが多い。
		(2) 相手の話を聞くのが苦手である。 *上記の同じ	(2) 視覚から情報をとらえて理解することは得意である。 *得意なところ		(5) 困ったことに直面した時に、他者に援助を求める方法が身に付いていない。 *卒業後を見据え、必要な連絡相談等ができてほしい
		(3) 他者に対して荒々しい行動に及んでしまうことがある。 *卒業後を見据え、感情をコントロールできるように			
		(3) 険しい表情・口調で話してしまうことが多い。			

記入例

実態把握



情報収集



	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
長所や良さ	【流れ図②-1】(27項目をすべてを確認して) 6区分に即して整理する					
課題						

【流れ図②-2, 3】

- 学習上又は生活上の困難としての捉え→教科のできる内容は教科で
- これまでの学習状況の視点→育まれている姿、もっと伸ばしたい姿、変化していない姿
- ○年後(卒業後)の姿をイメージしてつけておきたい力

- ①. 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集
- ②. -1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階
-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
-3 収集した情報(①)を○年後の姿の観点から整理する段階
- ③. ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階
- ④. ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
- ⑤. ④に基づき設定した指導目標を示す段階
- ⑥. ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階
- ⑦. 項目と項目を関連付ける際のポイント
- ⑧. 具体的な指導内容を設定する段階

確認!

「指導すべき課題」と「中心的な課題」の違いとは?

学習指導要領解説自立活動編(P.29)(P.109)

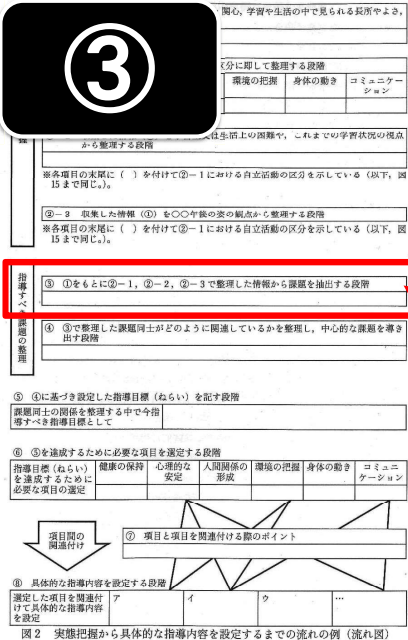
「指導すべき課題」

「中心的な課題」

(2) 指導すべき課題の整理

「中心的な課題」を導き出す段階

2 指導すべき課題の整理



- ①. 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集
- ②. -1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階
-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
-3 収集した情報(①)を○年後の姿の観点から整理する段階
- ③. ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階
- ④. ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
- ⑤. ④に基づき設定した指導目標を示す段階
- ⑥. ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階
- ⑦. 項目と項目を関連付ける際のポイント
- ⑧. 具体的な指導内容を設定する段階

■ 事例Aさんの場合

[心(1)] 気持ちが落ち着かなくなった時に、自らの行動を抑制することが難しい。

[人(2)] 一方的に話してしまうことが多い。

[身] 運動が好きで、進んで体を動かすことができる。

[環(2)] 視覚から情報をとらえて理解することは得意である。

[人(2)] 相手の話を聞くのが苦手

[人(3)] 他者に対して荒々しい行動に及んでしまうことがある。

[健] 健康状態は良好で生活リズムは確立している。

[コ(5)] 困ったことに直面した時に、他者に援助を求める方法が身に付いていない。

[コ(1)] 感情などを言葉にして話すことが難しく、相手に意思が伝わらないことが多い。

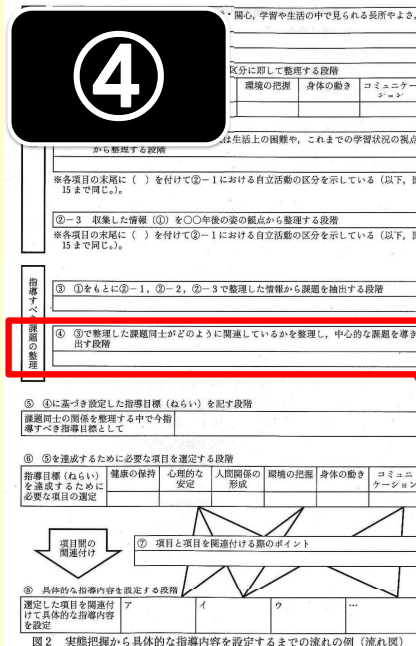
[環(2)] 聴覚から情報を得ることは苦手である。

- ②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階
- ②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
- ②-3 収集した情報(①)を○年後の姿の観点から整理する段階

健康の保持	心理的安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
健康状態は良好で生活リズムは確立している。 *できています	(1) 気持ちが落ち着かなくなった時に、自らの行動を抑制することが難しい。 *一般就労を目指すことから行動のコントロールは重要	(2) 一方的に話してしまうことが多い。 *関わりたい気持ちはある *卒業後に企業就労を見据え、会話が弾むような人間関係を築けるようになってほしい	(2) 聴覚から情報を得ることは苦手である。	運動が好きで、進んで体を動かすことができる。 *できています	(1) 感情などを言葉にして話すことが難しく、相手に意思が伝わらないことが多い。
		(2) 相手の話を聞くのが苦手である。 *上記の同じ	(2) 視覚から情報をとらえて理解することは得意である。 *得意なところ		(5) 困ったことに直面した時に、他者に援助を求める方法が身に付いていない。 *卒業後を見据え、必要な連絡相談等ができてほしい
		(3) 他者に対して荒々しい行動に及んでしまうことがある。 *卒業後を見据え、感情をコントロールできるように			
		(3) 険しい表情・口調で話してしまうことが多い。			

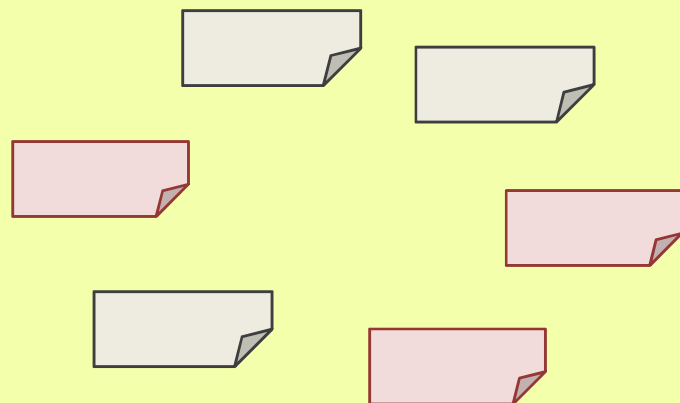
記入例

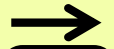
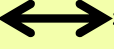
2 指導すべき課題の整理



- ①. 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集
- ②. -1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階
-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
-3 収集した情報(①)を○年後の姿の観点から整理する段階
- ③. ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階
- ④. ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
- ⑤. ④に基づき設定した指導目標を示す段階
- ⑥. ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階
- ⑦. 項目と項目を関連付ける際のポイント
- ⑧. 具体的な指導内容を設定する段階

(課題のステージ)



《記号》  原因→結果・影響
 相互に関連
 中心的な課題

■ 考えてみましょう！

《資料4》課題関連図演習ワークシートに記入してみましょう。

《記号》

- 原因と影響・結果
→ ←
- 相互に関連
- 中心的な課題 

指導すべき課題がどのように関連し合っているか、矢印を使って、考えてみましょう！（課題関連図を作成してみましょう！）



■ 事例Aさんの場合

[心(1)] 気持ちが落ち着かなくなった時に、自らの行動を抑制することが難しい。

[コ(5)] 困ったことに直面した時に、他者に援助を求める方法が身に付いていない。

[人(2)] 一方的に話してしまうことが多い。

[コ(1)] 感情などを言葉にして話すことが難しく、相手に意思が伝わらないことが多い。

[人(2)] 相手の話を聞くのが苦手である。

[環(2)] 聴覚から情報を得ることは苦手である。

[人(3)] 他者に対して荒ましい行動に及んでしまうことがある。

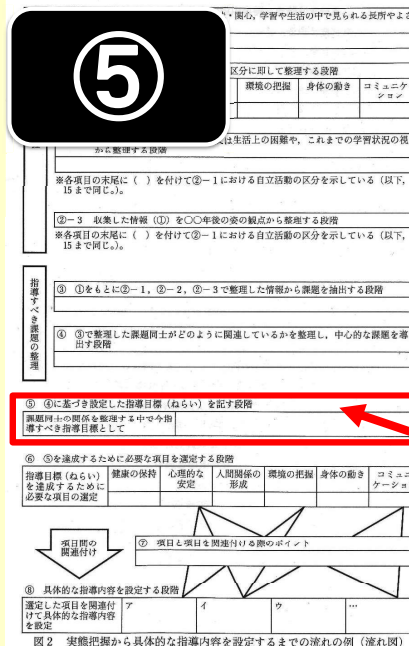
[人(3)] 険しい表情・口調で話してしまうことが多い。

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階(2/2)

- 困ったことに直面したときに、他者に援助を求める方法を身に付けていないことで、次第に気持ちが落ち着かなくなる状況が生まれている。また、気持ちが落ち着かなくなったときに、その状態を収める方法を身に付けていないため、他者に対して荒々しい行動になっている。従って、伝えたいことを整理して話をしたり、基本的な会話の方法を身に付けたりすることで、困った状況になることや、荒々しい行動に及ぶことが減少するようにしていくことが大切である。
- 合わせて、困ったことに直面した際に、そのことを他者に伝え、援助を求められるようにすることや、気持ちが落ち着かなくなった際に、その状態を収めることのできる本人なりの方法を身に付けていくことが大切である。
- これらの学習においては、視覚から情報をとらえて理解する力が高いことや、話すことや運動が好きなことなど、本人の強みを生かすような指導の仕方が望ましい。

(3) 「指導目標(ねらい)」の設定

3 指導目標の設定



- ①. 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集
- ②. -1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階
-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
-3 収集した情報(①)を○年後の姿の観点から整理する段階
- ③. ①をもとに②-1、-2、-3で整理した情報から課題を抽出する段階
- ④. ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
- ⑤. ④に基づき設定した指導目標を示す段階
- ⑥. ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階
- ⑦. 項目と項目を関連付ける際のポイント
- ⑧. 具体的な指導内容を設定する段階

中心的な課題を踏まえて、その年度の指導目標を設定する際に

- 中心的な課題の改善に迫れているか
 - 中心的な課題が改善されたときの姿を思い浮かべて
 - つながりのある周辺課題と関連させたりする場合もある
- 目標が1年間の指導で到達できるところ姿になっているか
- 具体的で評価ができるものであるか
 - 評価ができる基準が示されているか
 - 児童生徒の引き出したい表情、動き、距離、時間、正確性等/援助の種類、量、箇所、場面等
- これまでの学習状況を踏まえたものであるか

***実態把握、課題の抽出・整理、課題関連図の作成を通して、根拠をもって、児童生徒の将来の姿を思い描くことが大切**

確認! 評価できる指導目標のポイント

評価がしにくい指導目標例

コミュニケーション力を高める

評価がしやすい指導目標

【例】

- 教室で、担任に困ったことを相談できる。
- カードを使って、いらいらしていることを、担任に伝えることができる
- 物を借りるときに「かして」ということができる。
- 一方的に話をせずに、相手にあわせて話の調整ができる。



課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として

⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階

一方的に話すことを調整しながら、伝えたいことを整理して話すことができる。

(4) 必要な項目の選定

4 必要な項目の選定・関連づけ

⑥

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体への動き	コミュニケーション

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

⑧ 具体的な指導内容を設定する段階

図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例（流れ図）

- ①. 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集
- ②. -1 収集した情報①を自立活動の区分に即して整理する段階
-2 収集した情報①を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
-3 収集した情報①を○年後の姿の観点から整理する段階
- ③. ①をもとに②-1、-2、-3で整理した情報から課題を抽出する段階
- ④. ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
- ⑤. ④に基づき設定した指導目標を示す段階
- ⑥. ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階
- ⑦. 項目と項目を関連付ける際のポイント
- ⑧. 具体的な指導内容を設定する段階

ポイント 「必要な項目を選定する」とは

「指導目標を達成するために必要な項目を選定」

- 現在の状態への着目
- 現在の状態に至った原因や背景を明らかにする

《項目を選ぶ際に考えるポイント》

- 指導目標の分析
- 指導目標を達成できるための下支えとなる力
- 課題関連図にある項目 等

指導目標を達成するために必要な項目の選定					
⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階					
健康の保持	心理的安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	(1) 情緒の安定に関する事	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事	(1) 保有する感覚の活用に関する事	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事	(2) 状況の理解と変化への対応に関する事	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	(2) 言語の受容と表出に関する事
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事	(3) 言語の形成と活用に関する事
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事*		(4) 集団への参加の基礎に関する事	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	(4) 身体の移動能力に関する事	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
(5) 健康状態の維持・改善に関する事			(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

(5) 必要な項目を関連づけて具体的な指導内容を設定

5 必要な項目の関連づけ具体的な指導内容の設定

⑦ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

⑧ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

⑨ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

⑩ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

⑪ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

⑫ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

⑬ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

⑭ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

⑮ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

⑯ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

⑰ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

⑱ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

⑲ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

⑳ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㉑ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㉒ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㉓ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㉔ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㉕ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㉖ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㉗ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㉘ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㉙ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㉚ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㉛ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㉜ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㉝ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㉞ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㉟ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㊱ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㊲ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㊳ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㊴ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㊵ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㊶ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㊷ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㊸ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㊹ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㊺ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㊻ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㊼ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㊽ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㊾ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

㊿ ①をもちいて「学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集」

- ①. 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集
- ②. -1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階
-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
-3 収集した情報(①)を○年後の姿の観点から整理する段階
- ③. ①をもとに②-1、-2、-3で整理した情報から課題を抽出する段階
- ④. ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
- ⑤. ④に基づき設定した指導目標を示す段階
- ⑥. ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階
- ⑦. 項目と項目を関連付ける際のポイント
- ⑧. 具体的な指導内容を設定する段階

ポイント 「項目と項目を関連づける」とは？

学習指導要領解説における文例

- <○○のために> (身) (1) と (環) (1) と (心) (3) とを関連付けて設定した⑧ (ア)
- <○○ができるには> (身) (1) (3) と環境 (3) とを関連付けて設定したのが⑧ (イ)
- <○○することが必要なので>
- <○○を確実にするために>
- <○○の力を向上させるために>

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント、

- ・ <伝えたい内容を整理して話せるように> (環) (2) と (コ) (1) とを関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧アである。
- ・ <相手の話を聞いて、穏やかに話せるように> (人) (2) と (環) (2) と (コ) (5) とを関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧イである。
- ・ <落ち着かない気持ちを収められるように> (心) (1) と (人) (3) とを関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧ウである。

⑧ 具体的な指導内容を設定する

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定

ア 相手に伝えなければならぬ事柄を、いつ、どこで、どうしたいかなどの項目を示した資料を見ながら、順番に話す。

イ 日常の会話の様子を動画で撮影し、省みるようにすることで、相手の話を聞きながら話したり、穏やかな口調や表情で相手に接したりするよう意識する。

ウ 気持ちが不安定になったときには、その場を一時的に離れ、体を動かすなどして、発散できるようになる。

2 評価について

ポイント

「具体的な指導内容」設定の際に考慮すること
(解説P.111)

第7章 2の「(3) 具体的な指導内容の設定」を踏まえて

- 主体的に取り組む指導内容
- 改善・克服の意欲を喚起する指導内容
- 発達の進んでいる側面をさらに伸ばすような指導内容
- 自ら環境と関わり合う指導内容
- 自ら環境を整える指導内容
- 自己選択・自己設定を促す指導内容
- 自立活動を学ぶことの意義について考えさせるような指導内容

ポイント

「評価」(解説P.118)

自立活動における幼児児童生徒の学習の評価

- 実際の指導が、①指導目標(ねらい)に照らして②どのように行われ、幼児児童生徒がその指導目標(ねらい)の実現に向けて③どのように変容しているかを明らかにするもの
- 幼児児童生徒がどのような点でつまずき、それを改善するためにどのような指導をしていけばよいかを明確にしようとするもの

ポイント 指導要録の記入について

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）

30文科初第1845号平成31年3月29日

〔別紙1〕小学校及び特別支援学校小学部の指導要録に記載する事項等

自立活動の個別の
指導計画

6 自立活動の記録

特別支援学校小学部における自立活動の記録については個別の指導計画を踏まえ、以下の事項等を端的に記入する。

- ① 指導目標、指導内容、指導の成果の概要に関すること
- ② 障害の状態等に変化が見られた場合、その状況に関すること
- ③ 障害の状態を把握するため又は自立活動の成果を評価するために検査を行った場合、その検査結果に関すること

ポイント 自立活動の指導目標、指導内容、評価の妥当性を担保するために



- 妥当性を担保するために
 - ① 複数の教員間での検討・協議
 - ② 特別支援学校コーディネーターへの相談
- うまくいかないなら、勇気を持って見直しを

3 まとめ

子供が困っていることを出発点とすること



研修内容を理解し、より
深め、指導にあたってい
ただきますよう、よろしく
お願いいたします。
長時間、お疲れ様でした。



* 参考文献 *

- 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編 文部科学省（平成30年3月）
- 特別支援学級担任及び通級による指導担当教員のためのハンドブック（平成29年3月 熊本県教育委員会）
- 自立活動内容整理表 松橋東支援学校平成29年度研究紀要付録
- 2020九州自立活動ネットワーク研修会 長崎県 宮尾尚樹氏、佐仲健吾氏資料
- 2020年度 菊池支援学校「自立活動の個別の指導計画」様式
- 制作協力：菊池支援学校 宮崎亜紀指導教諭